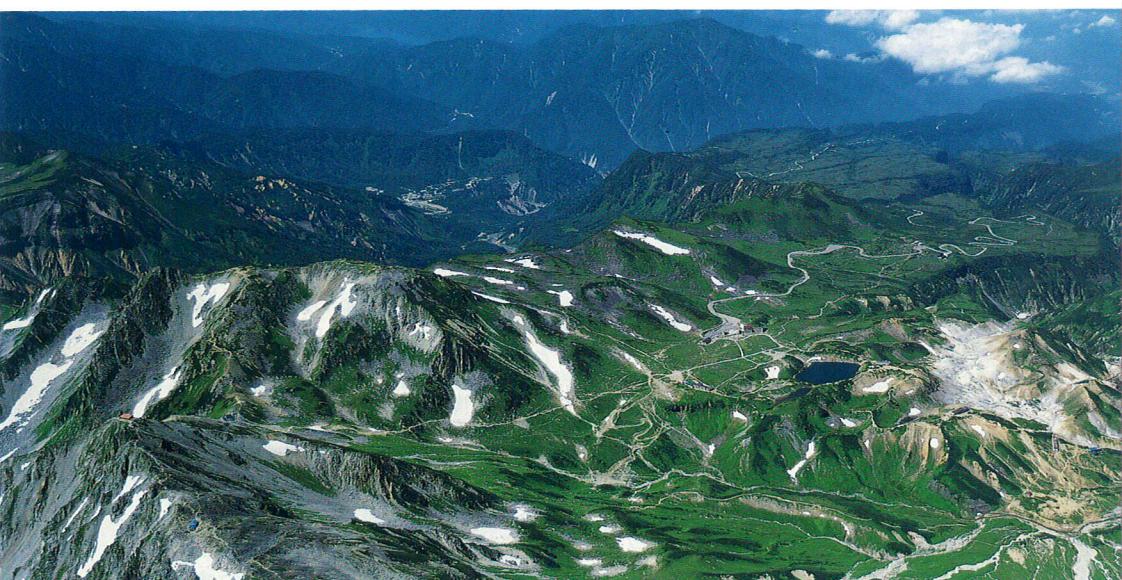


株主の皆様へ

第47期 報 告 書

平成22年4月1日～平成23年3月31日



立山へと延びるアルペンルート（空撮）

立山黒部貫光株式会社

ございさつ



株主の皆様へ

代表取締役社長 佐 伯 博

株主の皆様には、日頃より、当社事業に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

本年3月の東日本大震災で被災されました株主の皆様には心よりお見舞いを申し上げるとともに、一日も早い復旧、復興をお祈りいたします。

この度、6月28日開催の第47回定時株主総会後の取締役会におきまして、中村憲史に代わり、代表取締役社長に就任いたしました。目下の当社を取り巻く環境は大変厳しい状況ですが、自然と人間の関わりがあらためて問われている中で、立山黒部アルペンルートの存在価値は今後ますます高まるものと思います。折しも全線開業40周年を迎えたことを機に、今一度創業の原点に立ち帰り、社業の発展に尽くす所存でございますので、何卒ご指導ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。

さて、平成22年度の観光業界におきましては、前期に発生した新型インフルエンザの反動で、海外旅行ならびに訪日外国人旅行が拡大しましたが、景気低迷が続く中、本格的回復には至りませんでした。また、インターネットによる予約の増大や、団体親睦旅行の減少、旅行業者の店舗の再編成など販売形態・旅行形態の変化が一層進行いたしました。

立山黒部アルペンルートにおきましては、大都市圏からの国内募集団体と訪日旅客の確保を中心に積極的なセールス・宣伝活動を行い、特に台湾、韓国などからの訪日団体は大きく回復いたしましたが、黒部ケーブルカー故障による運休、円高による海外旅行シフトなどが響き、国内旅客は前年を下回りました。通年では何とか、100万人の入り込みを確保したものの、大変厳しい結果に終わりました。

23年度におきましては、国内募集団体の確保を核としつつ、増加傾向にある個人旅客への対応を強化するとともに、海外からの訪日旅客の確保に一層力を注いで参る所存です。

なお、この度の震災ならびに原発事故により、国内はもとより特に訪日観光客が激減し、当社事業においても、営業開始当初より非常に厳しい実績で推移しております。

当社では、まず「アルペンルートは安全である」とのメッセージを内外に発信することが最優先であると考え、全線開通の4月16日には、台湾から旅行業者やマスコミ関係者を招くなど、積極的に安全・安心情報を発信し、風評の払拭に努めました。国内に対しても、情報発信とともに地域と時期を絞ったセールス・宣伝活動を実施し、今後は首都圏を中心とする大都市圏への働きかけを強めることとしております。旅客の完全な回復にはまだ時間を要するとみられますが、台湾からの旅客や個人旅客を中心に徐々に復調の兆しも見えてきており、今後国内外からの誘客に役職員一丸となって取り組み、巻き返しをはかって参ります。

もとより、安全運行の徹底、自然環境の保護・保全など当社存立の基盤となる諸課題につきましても、引き続き維持、向上をはかって参る所存です。

冒頭に申しました通り、立山黒部アルペンルートは本年6月1日、昭和46年の全線開業から、40周年を迎えました。

申すまでもなく、立山の開発は、創業者である佐伯宗義初代社長が、昭和の初めより抱いた永年の夢でありましたが、戦争の混乱を経て昭和27年に立山開発鉄道(株)を創設し、その実現化に着手してからも幾多の困難に遭遇し、当社がその構想を引き継ぎルート完成に漕ぎ着けるまで、約20年の歳月を要した大事業であります。

今や、富山县を代表する観光事業として位置づけられ、また我が国でもその例をみない一大山岳ルートとして、高い評価を受けるに至りましたが、これもひとえに、株主をはじめとする関係各位のご理解とご支援の賜であり、ここに深く感謝申し上げます。

私どもは、今後とも創業の理念と精神をしっかりと継承しつつ、あらたな事業の発展に微力を尽くす所存であります。

株主の皆様には、引き続きより一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願いを申し上げます。

平成22年度事業概況 (平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

当期の立山黒部アルペンルートは、前年同様、4月10日に、富山側は立山～弥陀ヶ原間、大町側は信濃大町～室堂間が営業を再開し、4月17日には、立山～信濃大町間が全線営業再開となり、11月30日まで営業いたしました。

営業の推移を概観しますと、営業直後の4月は企画募集団体を中心に好調に推移し、5月は、前年の「黒部の太陽」効果の反動で、特に大町入込が苦戦したものの、訪日団体を中心に富山入り込みが前年を上回り、5月全体では前年をわずかに下回る結果となりました。

しかし、5月31日から6月22日の間、黒部ケーブルカーが制御機器の支障により運休したことにより、大町入り込みが前年の約6割に減少し、振り替えにより増加した富山入り込みとあわせても、6月の入り込み人員は前年の8割程度に落ち込みました。7月はセールスの自粛が響き前年を下回る入り込みで終わりましたが、8月は富山県民感謝デー等が好調で前年を上回りました。9月は、前期のシルバーウィークの反動で前年を2割近く割り込み、紅葉期の10月は、目標には届かなかったものの前年を上回り、11月の営業終了を迎きました。

この結果、当期の入り込み人員は、合計1,001千人（対前年97%、36千人減）となり、なんとか100万人を維持することができたものの、大変厳しい結果となりました。

これを旅客の内訳で見ますと、国内の旅客は、9月のシルバーウィークの反動による大幅な減少と、10月の紅葉期が円高による海外旅行へのシフトなどにより予想したほどの集客に至らなかつたことにより、904千人（対前年93%、64千人減）となりました。

一方、東アジアを中心とした訪日旅客は、景気を持ち直した台湾、香港、主要都市でのセールスを強化した韓国からの旅客が大幅に回復し、97千人（対前年141%、28千人増）となりました。

また、入り込み別では、富山入り込みが487千人（対前年101%）と増加したのに対し、大町入り込みは514千人（対前年93%）と減少いたしました。

これを旅客の流動で見ますと、富山入り込みの室堂、大観峰、黒部平での折り返しの旅客が前年を上回ったほかは、通り抜け、折り返しいずれも前年より減少いたしました。

以上により当社区間(立山～黒部湖間)の輸送人員は、鋼索鉄道線（立山ケーブルカー）777千人（対前年103%）、自動車線811千人（対前年100%）、無軌条電車線699千人（対前年97%）、普通索道線731千人（対前年97%）、鋼索鉄道線（黒部ケーブルカー）739千人（対前年95%）となりました。

この結果、当期の運輸収益は、鋼索・索道・無軌条電車事業26億87百万円（対前年95%）、自動車事業10億44百万円（対前年98%）となり、これに構内販売等付帯事業7億96百万円（対前年93%）を加えた収益合計は、45億28百万円（対前年95%）となりました。

次に営業費につきましては、人件費、物件費の圧縮など経営全般にわたる効率化に努めました結果、営業費合計は43億41百万円（対前年97%）となりました。

これに営業外収益61百万円（対前年108%）、営業外費用65百万円（対前年122%）を加減した、当期の経常利益は1億83百万円（対前年64%）となりました。さらに減損損失等の特別損失、また法人税等ならびに税効果会計による法人税等調整額を加減した、当期純利益は30百万円（対前年25%）を計上することとなりました。

アルペンルートと当社の歩み

昭和 26年	5月 1日	電力事業再編成、9電力会社設立
	12月24日	立山開発鉄道(株)設立発起人会開催
27年	4月 1日	立山開発鉄道(株) (TKR) 設立
29年	8月13日	鋼索線（千寿ヶ原～美女平）営業開始
30年	7月 1日	高原バス（美女平～弘法）営業開始
31年	10月 4日	弥陀ヶ原ホテル営業開始
35年	5月 8日	立山黒部有峰開発(株) (TKA) 設立
39年	6月20日	高原バス全線（美女平～室堂）営業開始
	8月 1日	関電トンネルトロリーバス（扇沢～黒部ダム）営業開始
	12月25日	立山黒部貫光(株) (TKK) 設立
40年	11月 2日	黒部ケーブルカー、立山ロープウェイ、立山トンネル起工式
42年	12月24日	立山貫光ターミナル(株) (TKT) 設立
44年	7月20日	黒部ケーブルカー（黒部湖～黒部平）営業開始
	12月 9日	立山トンネル貫通
45年	7月 1日	立山～信濃大町間を「立山黒部アルペンルート」と命名
	7月25日	立山ロープウェイ（黒部平～大観峰）営業開始
46年	4月25日	立山トンネルバス（室堂～大観峰）営業開始
	6月 1日	立山黒部アルペンルート全線開業
47年	8月28日	室堂ターミナルビル全館完成
	9月 1日	ホテル立山営業開始
54年	10月 1日	TKKとTKAが合併
62年	9月21日	宇奈月国際ホテル営業開始
63年	3月25日	立山ロープウェイ大型新搬器へ更新
平成 6年	7月12日	弥陀ヶ原ホテル改築営業開始
8年	4月23日	立山トンネルトロリーバス営業開始
10年	7月 9日	立山高原バスにハイブリッドバス運行開始
13年	6月 1日	全線開業30周年
15年	4月10日	立山ケーブルカー車輌更新営業開始 立山ロープウェイ支索更新営業開始
17年	10月 1日	TKKとTKRが合併
19年	7月10日	美女平駅新駅舎完成
23年	6月 1日	全線開業40周年



立山ケーブルカー営業開始
昭和29年8月13日



立山トンネル室堂工事事務所
昭和41年



大観峰駅建設工事
昭和43年



立山トンネル貫通式
昭和44年12月15日



室堂ターミナルビル建設工事
昭和45年



立山黒部アルペンルート全線開業式典
昭和46年6月1日

運輸営業成績表（平成22年度）

項目		鋼索鉄道線 (立山ケーブルカー)	前年比 %	自動車線 (立山高原バス等)	前年比 %	無軌条電車線 (立山トンネルトロリー/バス)	前年比 %
営業キロ	キロ	1.3	100	82.5	100	3.7	100
営業日数	日	232	99	342	100	235	100
旅客輸送人員	人	777,070	103	811,429	100	699,217	97
旅客運輸収入	千円	425,449	101	1,036,417	99	1,100,637	94
運輸雑収	千円	2,197	117	7,510	96	2,321	122
収益計	千円	427,647	101	1,043,928	98	1,102,958	94
車両走行キロ	キロ	29,203	100	709,382	101	101,387	96

項目		普通索道線 (立山ロープウェイ)	前年比 %	鋼索鉄道線 (黒部ケーブルカー)	前年比 %
営業キロ	キロ	1.7	100	0.8	100
営業日数	日	235	100	235	100
旅客輸送人員	人	731,495	97	738,996	95
旅客運輸収入	千円	689,521	94	463,969	92
運輸雑収	千円	1,965	122	1,346	120
収益計	千円	691,486	94	465,316	92
車両走行キロ	キロ	39,454	98	14,595	93

構内販売その他営業成績表（平成22年度）

項目		構内営業	前年比%	賃貸収入	前年比%
営業収益	千円	726,177	92	70,000	100

財産および損益の推移

区分		第44期 (平成19年度)	第45期 (平成20年度)	第46期 (平成21年度)	第47期(当期) (平成22年度)
営業収益	千円	5,417,146	5,689,916	4,757,327	4,527,514
当期純利益	千円	18,381	168,714	119,710	30,143
1株当たり当期純利益		1円99銭	18円66銭	13円34銭	3円36銭
総資産	千円	12,572,530	11,951,386	11,640,170	11,132,030

平成23年度の取り組み

入り込み人員の確保においては、旅行代理店の集客による国内募集団体が、依然として核であるものの、個人化への対応と訪日外国人旅客の確保の重要性はますます高まっており、これらに対する誘客促進が一段と求められて来ております。加えて今般の震災が旅客動向に深刻な影響を及ぼすことが懸念され、当面、予断を許さない状況が続くと予想されます。

そのような中、当社は市場の動向に機動的かつ柔軟に対応し、旅客の確保をはかると共に、運営の効率性を高めて、経営基盤の維持強化をはかって参ります。

なお、本年は、立山黒部アルペンルートが昭和46年に全線開業してから40周年の記念すべき年にあたります。当社では、記念のイベントや営業施策を通して誘客に努め、ひとりでも多くのお客様の確保に努めて参ります。

1 営業施策

国内旅客対策としましては、40周年キャンペーン等を通じた販売促進策により旅行代理店との連携強化を基本方針に、業界の構造変化と、業態の多様化にもきめ細かく対応した販促活動を推進して参ります。特に昨年減少した通り抜け旅客の回復を重点課題とし、当社線利用客の確保を目指して参ります。

個人旅客の誘致策としましては、大都市圏を中心とした広告宣伝の強化、マイカー誘致策の推進、ホームページを通じて購入できる「WEBきっぷ」の充実、各種イベントの充実等を進めて参ります。

訪日外国人旅客対策としましては、主要市場である台湾、香港、韓国での維持拡大をはかるべく、春期に加えて、夏期、秋期の集客を目指し、誘致セールスを一層強化してゆくほか、団体以外のFIT（個人旅行者）への情報発信と受入態勢の整備を進めて参ります。また、タイ、シンガポール、インドネシア等の新興市場へのセールス、宣伝の強化により、知名度を向上させ、集客増に繋げて参ります。なお、有望市場である中国に対しましても、今後の成長を見込み、重点エリア（深セン・広州・上海・北京等）への効果的な広告宣伝活動により市場の開拓をはかって参ります。

なお、今般の震災の影響に対しましては、動向の進展に迅速に対応することとし、国内外への的確な情報発信を行ってゆくと共に、時期と対象地を絞った効果的なセールス活動と広告宣伝を行う態勢をとっています。また、状況に応じた効率的な営業体制によりコスト管理を徹底して参ります。

2 安全運行の確保

運輸事業を営む当社にとりまして、安全の確保は当然かつ絶対の責務であります。全職場における安全管理と安全教育を徹底し、改善を重ねて参ります。レストラン、売店における食の安全にも万全を期して参ります。

また、昨年の黒部ケーブルカーの運休を踏まえ、日常点検、定期点検を強化し、支障発生の未然防止をはかると共に、万一の支障発生時における迅速かつ的確な対応のための体制を整え、これの維持向上に継続的に取り組んで参ります。

3 自然環境の保全

23年度の営業再開は、関係機関のご協力ご配慮を得て、4月10日に大町側は信濃大町から室堂まで、富山側は立山から弥陀ヶ原までが部分再開し、前年より1日早い4月16日に全線で営業を再開いたしました。営業再開にあたっては、これまで同様、早春の立山一帯における旅客の安全と環境保全ならびに自然保護に対する理解の周知徹底を行い、万全を期して参りました。

また、今後とも環境にやさしい輸送手段の維持更新、ごみ処理対策の徹底、美化清掃活動の推進、外来植物繁殖等への対策等、引き続き、立山の大自然を守り伝えるための努力を続けて参ります。

これからも自然公園法の目的に添い、「自然にふれあい、自然のすばらしさを知ってもらえるよう」観光と環境保全の調和を図り、関係機関と連携して立山黒部の大自然を広く紹介して参りたいと存じます。

新年度トピックス

綺麗になりました～室堂ターミナルコンコース明粧化・トイレ改修～

23年度営業開始にあわせ、室堂ターミナルコンコースの壁と天井が、クリーニングと改修により明るく綺麗に生まれ変わりました。また、1階のトイレも改修され新しくなりました。女子トイレは数も増え、多目的トイレや明るくなった手洗いコーナーは、使いやすいと好評です。



明るくなったコンコース



広い多目的トイレ

全線開業40周年記念祝賀会開催

平成23年6月1日、この日が立山黒部アルペンルートが全線開業して40周年にあたることを記念して、室堂にあるホテル立山において、祝賀会が行われました。関係者約150人が出席する中、中村憲史社長が、アルペンルートの成り立ちを振り返るとともに、立山の観光の発展に尽くしてきた人への感謝の言葉を述べました。



また、会場では、来年4月から当社と関西電力(株)で情報ネットワークを共有する「光ケーブル連係計画」を発表、各駅にモニターを設置し、交通機関の最新の運行状況や自然のライブ映像を提供できるようにすることなどが、モニターを使ってデモンストレーションされました。



上：鏡割り
下：握手する中村社長と関西電力岩根常務

山ガールが案内します

富山県は当社などの協力のもと、23年度から初めて「富山観光案内所」を、室堂に開設しました。登山やトレッキングの楽しみ方や県内の観光案内もします。リアルタイムな情報を、立山室堂からブログなどで発信してゆきます。



4人でがんばります！

山スカートにトレッキングシューズ、明るい色の登山ウエアに身を包んだ山ガールは4人。案内所は11月中旬まで2名が常駐する予定です。

東京山手線で宣伝開始

東日本大震災の影響で延期されていた山手線ラッピング電車広告が、平成23年4月20日から5月28日の間実施されました。今年は山ガールバージョンが好評です。また、名古屋、大阪、京都などでも宣伝活動を活発化させ、アルペンルートをアピールしています。



個別財務諸表

貸借対照表の要旨

(平成23年3月31日現在)

(単位:百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	501	流動負債	867
現金及び預金	292	支払手形	22
未収金	10	短期借入金	511
商品	14	未払金	121
飲食材料品	3	未払費用	16
貯蔵品	91	未払消費税等	15
前払金	14	未払法人税等	65
繰延税金資産	55	預り金	5
その他の流動資産	17	賞与引当金	108
固定資産	10,630	固定負債	2,257
鋼索・索道・無軌条電車事業固定資産	2,987	長期借入金	1,181
自動車事業固定資産	218	退職給付引当金	956
付帯事業固定資産	2,357	役員退職慰労引当金	77
各事業関連固定資産	2,285	環境対策引当金	15
その他の固定資産	47	資産除去債務	25
投資その他の資産	2,733	負債合計	3,124
関係会社株式	2,066	(純資産の部)	
投資有価証券	82	株主資本	7,269
出資金	1	資本金	4,160
長期貸付金	12	利益剰余金	3,434
関係会社長期貸付金	101	利益準備金	466
繰延税金資産	87	その他利益剰余金	2,967
その他の投資等	407	自己株式	△325
貸倒引当金	△25	評価・換算差額等	738
		その他有価証券評価差額金	738
資産合計	11,132	純資産合計	8,007
		負債・純資産合計	11,132

損益計算書の要旨

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

(単位:百万円)

科 目	金 額
鋼索・索道・無軌条電車事業	
営業収益	2,687
営業費用	2,445
営業利益	241
自動車事業	
営業収益	1,043
営業費用	1,014
営業利益	29
付帯事業	
営業収益	796
営業費用	880
営業損失	84
全事業営業利益	186
営業外収益	61
営業外費用	65
経常利益	182
特別損失	92
税引前当期純利益	89
法人税、住民税及び事業税	111
法人税等調整額	△51
当期純利益	30

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。また、消費税等の会計処理は、税率方式によっております。

※付帯事業には構内販売事業ほかが含まれています。

株主資本等変動計算書

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本						純資産合計	
	資本金	資本剰余金	利益剰余金			自己株式	株主資本合計	
		その他 資本剰余金	利益 準備金	その他利益剰余金	利益剰余金 合計			
前期末残高	4,160	455	2,800	260	3,516	△325	7,351	744 8,095
当期変動額								
剩余金の配当		11		△123	△112		△112	△112
当期純利益				30	30		30	30
自己株式の取得								
自己株式の処分								
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)							△6	△6
当期変動額合計	-	-	11	-	△93	△81	△81	△6 △88
当期末残高	4,160	466	2,800	167	3,434	△325	7,269	738 8,007

連結財務諸表

連結貸借対照表の要旨

(平成23年3月31日現在)

(単位:百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	1,140	流動負債	1,113
現金及び預金	819	支払手形及び買掛金	66
売掛金	16	短期借入金	525
たな卸資産	155	未払消費税等	18
繰延税金資産	79	未払法人税等	69
その他の	70	賞与引当金	160
		その他の	237
固定資産	11,356	固定負債	2,746
有形固定資産	9,012	長期借入金	1,181
建物及び構築物	5,419	退職給付引当金	1,335
機械装置及び運搬具	747	役員退職慰労引当金	86
土地	2,642	環境対策引当金	19
その他の	203	資産除去債務	25
無形固定資産	60	負ののれん	99
ソフトウェア	27		
その他の	32		
投資その他の資産	2,283		
投資有価証券	1,547	(純資産の部)	
長期貸付金	113	株主資本	7,481
繰延税金資産	274	資本金	4,160
その他の	373	利益剰余金	3,643
貸倒引当金	△25	自己株式	△321
		その他の包括利益累計額	767
		その他有価証券評価差額金	767
		少数株主持分	388
		純資産合計	8,637
資産合計	12,497	負債・純資産合計	12,497

連結損益計算書の要旨

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

(単位:百万円)

科 目	金 額
営業収益	7,056
営業費用	6,921
運輸業等営業費及び売上原価	3,967
販売費及び一般管理費	2,953
営業利益	135
営業外収益	67
営業外費用	66
経常利益	137
特別損失	98
税金等調整前当期純利益	38
法人税、住民税及び事業税	112
法人税等調整額	△61
少数株主損益調整前当期純損失	12
少数株主損失	16
当期純利益	3

※連結決算の対象会社は、子会社の立山貴光ターミナル(株)、立山黒部サービス(株)です。

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。また、消費税等の会計処理は、税抜方式によってあります。

連結株主資本等変動計算書

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額	少數株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
前連結会計年度末残高	4,160		3,751	△322	7,589	767	427	8,785
連結会計年度の変動額								
剰余金の配当			△112		△112			△112
当期純利益			3		3			3
自己株式の取得								
自己株式の処分								
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)							△38	△39
当連結会計年度変動額合計	-	-	△108		△108		△38	△147
当連結会計年度末残高	4,160		3,643	△321	7,481	767	388	8,637

会社概要／役員

(平成23年3月31日現在)

- 設立年月日 昭和39年12月25日
- 資本金 41億6千万円
- 発行済株式総数 9,291,668株
- 株主数 1,428名
- 役員

代表取締役社長	中村憲史
常務取締役 総務部長	佐伯 博
常務取締役 経営企画室長	堀内和夫
常務取締役 経理部長	佐川 栄
常務取締役 運輸業務部長	村井宏光
取締役	石井隆一
取締役	山田圭藏
取締役	高木繁雄
取締役	岩根茂樹
取締役	桑名博勝
取締役	森 雅志
取締役	牛越 徹
取締役	佐伯元子
取締役	馬嶋 章
取締役 物品販売部長	永崎泰雄
取締役 営業推進部長	野島浩二
常勤監査役	松岡 彰
監査役	寺林 敏
監査役	舟橋貴之
監査役	金井昌一

※平成23年6月28日開催の第47回定期株主総会および取締役会において役員が変更され、
代表取締役社長に佐伯 博、
専務取締役に佐川 栄、
常務取締役に堀内和夫、永崎泰雄
がそれぞれ就任いたしました。

株主優待基準

ご所有株式数	優待乗車券・乗車証			ホテル宿泊割引券
	種類	適用区間	発行枚数	
100株～150株未満	優待乗車券(片道)	立山～室堂	2枚	2枚
150株～300株未満	優待乗車券(片道)	立山～室堂	3枚	2枚
300株～400株未満	優待乗車券(片道) 優待乗車券(片道)	立山～室堂 立山～黒部湖	1枚 2枚	2枚
400株～600株未満	優待乗車券(片道)	立山～黒部湖	4枚	2枚
600株～800株未満	優待乗車券(片道)	立山～黒部湖	6枚	2枚
800株～1,000株未満	優待乗車券(片道)	立山～黒部湖	8枚	2枚
1,000株～2,000株未満	優待乗車券(片道)	立山～黒部湖	10枚	4枚
2,000株～3,000株未満	優待乗車券(片道)	立山～黒部湖	20枚	4枚
3,000株以上	優待乗車券(片道) 優待乗車証(記名式)	立山～黒部湖	30枚 1枚	6枚

●優待有効期間 各年度 営業期間中 ●各券のご利用方法につきましては、各券面記載事項をご覧願います。

株主メモ

- 事業年度 4月1日～翌年3月31日
- 定時株主総会 6月
- 基準日
株主優待券 2月末日
定時株主総会の議決権 3月31日
期末配当金 3月31日
- 公告掲載新聞 北日本新聞
- 単元株式数 100株
- 株主名簿管理人
東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号
日本証券代行株式会社
- お問合せ・送付先
〒137-8650
東京都江東区塩浜二丁目8番18号
日本証券代行株式会社 代理人部
0120-707-843 (フリーダイヤル)

単元未満株式買取 買増制度のご案内

当社では、単元未満株式（100株未満）をご所有の株主の皆様のご便宜を図るため、単元未満株式の買取および買増制度を行っております。

<単元未満株式の買取り>
株主様がお持ちになっている単元未満株式を、当社が買い取らせていただきます。

<単元未満株式の買増し>
株主様がお持ちになっている単元未満株式と合わせて1単元（100株）となる株式を当社が株主様に売却いたします。

お手続きの詳細につきましては、上記日本証券代行 代理人部までお問い合わせください。

旧「立山開発鉄道株式会社」株券をお持ちの株主様

当社では、合併により消滅した立山開発鉄道株式会社の株券と、当社株券との引換を行っております。

また引換のお済みでない株主様は、新株券との引換をお願い申しあげます。

なお、引換のお手続きにつきましては、上記日本証券代行 代理人部までお問い合わせください。

お得な往復きっぷ発売中！

【ファミリーきっぷ】

子ども運賃相当を割引

家族みんなで立山へ行こう！

大人1人に対し同行するこども(小学生以下)1人分が
無料となります。

発売区間(往復のみ)

立山駅→弥陀ヶ原、室堂、大観峰、黒部平、黒部湖

室堂→弥陀ヶ原、大観峰、黒部平、黒部湖

黒部湖(扇沢)→黒部平、大観峰、室堂

(※扇沢～黒部ダム間は割引がありません)

発売期間

通年

発売駅

立山駅、室堂駅、黒部湖駅、扇沢駅

【美女平再発見きっぷ】

立山駅～美女平往復

お手軽にちょっと立ち寄る入門コース

森林浴やパークウォッキング、気軽に森の空気を吸
いに行きませんか？(立山駅にて発売)

おとな 1,000円 こども 510円

発売期間 10/21～11/10

立山アルペン俱楽部 会員募集

立山黒部アルペングルートでは、立山が大好きなお客様を対象に「立山アルペン俱楽部」の会員を
募集いたします。会員の皆様には数々の特典をご用意いたしました。

◆特典1

立山駅～黒部湖駅間の運賃を割引いたします。

入会金 2,000円 有効期間3シーズン

◆特典2 宿泊割引

◆特典3 レストラン割引

◆特典4 売店割引 ※一部除外品有

詳しくは、下記まで。

「立山アルペン俱楽部」事務局

☎076-441-3000

営業時間 月～金：8:30～17:30

<http://www.alpen-route.co.jp/alpen-club.html>

全線開業40周年記念「立山・扇沢連絡バス」

日本海側をぐるっと経由して、立山黒部アルペングルート両端の駅を結ぶ連絡バスです！

◆バス発着時刻

立山駅発7:30→扇沢着11:00 (所要3時間30分)

扇沢発14:00→立山駅着17:30 (所要3時間30分)

◆実施日

7/30(土)、8/6(土)、8/20(土)、

8/27(土)

◆募集定員

各日45名 (最少催行人員1名)

連絡バスの旅行代金 2,500円

(おとな・こども共通：ただし座席を使わない
乳幼児は無料)

※旅行代金のお支払いは、現金のみとなります。

詳しくは、下記まで。

立山黒部貫光(株)営業推進部

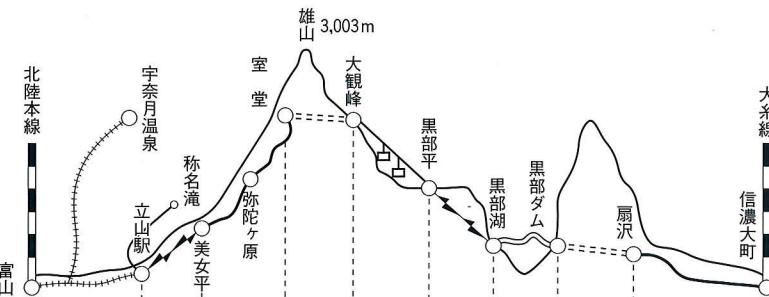
☎076-411-9035

営業時間 月～金：8:30～17:30

http://www.alpen-route.com/_plan/event/000375.html



立山黒部アルペンルートのご案内



乗物	電車	立山ケーブルカー	立山高原バス	立山トロリーバス	立山ロープウェイ	黒部トロリーバス	(徒歩)	関電トロリーバス	路線バス
キロ(時間)	34km(60分)	1.3km(7分)	23km(50分)	3.7km(10分)	1.7km(7分)	0.8km(5分)	0.8km(5分)	6.1km(16分)	18km(40分)
運賃(片道)	1,170円	700円	1,660円	2,100円	1,260円	840円		1,500円	1,330円
賃(往復)	2,340円	1,250円	2,940円	3,150円	1,890円	1,260円		2,500円	2,400円

営業推進部

〒930-0849富山県富山市稻荷園町2-34
営業企画センター・販売予約センター・海外営業センター・宣伝センター
☎(076)432-2819 FAX(076)442-3431

立山黒部東日本営業所
〒102-0081東京都千代田区四番町4-9東越伯鷹ビル1階
☎(03)3262-7028 FAX(03)3265-5285

立山黒部東海営業所
〒460-0008愛知県名古屋市中区栄4-1-1中日ビル10階
☎(052)241-2268 FAX(052)241-2275

●ホームページアドレス
<http://www.alpen-route.com>

立山黒部西日本営業所
〒550-0004大阪府大阪市西区朝本町1-9-15近畿富山会館4階
☎(06)6445-0359 FAX(06)6445-0398

立山黒部大町営業所
〒398-0002長野県大町市五日町3226-2
☎(0261)22-0198 FAX(0261)23-2967

グループのホテル

宇奈月国際ホテル
〒938-0282富山县黒部市宇奈月温泉7-26
☎(0765)62-1236 FAX(0765)62-1808

ホテル立山
〒930-1414富山县中新川郡立山町芦峰寺堂
☎(076)465-3333 FAX(076)465-3336

弥陀ヶ原ホテル
〒930-1412富山县中新川郡立山町吉崎寺弥陀ヶ原
☎(076)442-2222 FAX(076)442-2242

(編集・発行) 立山黒部貫光株式会社

〒930-8558富山県富山市桜町1-1-36
☎(076)441-3331(代表) FAX(076)432-9056

(自然環境保護のため、環境にやさしい「水なし印刷」「植物性大豆油インキ」を使用しております。)

